

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600031		
法人名	社会福祉法人 做裏会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 あゆみの家		
所在地	京都府亀岡市篠町篠下中筋44-5		
自己評価作成日	平成25年4月15日	評価結果市町村受理日	平成25年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=2691600031-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気でご入居者が落ち着いて過ごせるように心掛けている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「個々に寄り添い明るく楽しいあゆみの家」という理念は、利用者に慣れ親しんだ場所で明るく過ごしてほしいとの願いと、個々の希望に添った暮らしの継続を踏まえて職員間で話し合っており、作られています。利用者の不安感を払拭し、穏やかに過ごせるように、職員は日々の小さな状態の変化にも気付く目を持ちながら明るく対応しています。毎日「今日のケアで良かった点」を記録に残し、日々の喜びと変化を明日のケアに繋げて更に向上できるように務めています。ホームの周りには山で囲まれ、四季折々の風景を楽しみながら利用者は昔懐かしい日本家屋に住み、自然と皆が集まる談話室で利用者同士で話をしたり笑い合ったりしながら楽しく過ごしており、互いを思いやり連帯感を育みながら生活支援をされているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々に寄り添い、明るく楽しいあゆみの家」をあゆみの家の基本理念とし毎朝唱和している。	法人の理念を基に、利用者の現状やホームでの目指している暮らし方等を職員間で話し合い独自の理念を作っています。慣れ親しんだ場所で明るく過ごしてほしいとの願いも込めています。日々の小さな変化にも気付き不安を払拭する事ができるように臨機応変な対応を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の散歩や買い物、外食、地域の敬老会への参加など社会とのつながりを持っている。	自治会に参加し回覧板で地域の情報を得ています。老人会に参加した際には、利用者の知り合いに出会うことができ、楽しい時間を過ごせています。日常的に近隣の方と挨拶や立ち話をしたり、法人内の保育園児との交流があります。今年度はホームで夏祭り等の行事に地域の方々を招待する予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へは実践できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し課題について話し合い、会議内での提案を参考にミーティング会議内で報告、改善対策の周知等改善処置を行っている	会議は家族、民生委員、行政、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に一度開催しています。事業所の活動や体制、利用者の様子を報告し、参加者から意見やアドバイス、地域の情報をもらっています。課題を提示して話し合う事もあり、ホームの運営に活かしています。今後は消防団に参加を呼びかけ、災害時の訓練を兼ねて行いたいと考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議の場での報告、相談を行っている。また、困難事例の実情を伝えたり、連携をとっている。	運営推進会議に参加してもらい、ホームの現状を知ってもらえる機会になっています。役所に出向いて話をする機会もあり、市のイベント毎の案内の配布を頼まれて請け負っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修を実施し職員に周知している。	身体拘束の研修を受講しています。職員間で具体的な例をあげて話し合う事もあり、提供しているケアが拘束に当たらないかを振り返ったり、法人内の他部署のからのアドバイスも聞く等身体拘束をしないケアを実践しています。また、夜間以外施錠はしておらず、外出傾向が見られる場合は気分転換できるように寄り添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング会議内での虐待についての研修会の実施。また、日常のケアで、利用者の身体に傷等がある場合は上司に報告する		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に制度の研修を実施することで周知している。また利用者で必要と思われる方への制度の活用についての説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすく家人に説明を行い、不明な点があれば随時説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家人への満足度調査の実施。課題点を改善している。	家族会や運営推進会議の際にも意見や要望を聞く機会を持っています。また、家族の来訪時には個別に話をする場も設けており、得られた意見は早期に対応できるように努めています。年に1回満足度アンケートを行い、集計をして結果を報告していますが、更にホームの課題を見つけ、改善に繋がるように次年度のアンケートの項目を考案中です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員へのアンケートの実施。アンケート内容から会議内で検討し改善している。	毎月会議を開催し、職員間で意見を出し合い、細かな事柄にも意見を反映し、業務改善に繋がっています。欠席の場合は、前もって議題を出して意見を述べています。また、職員アンケートを行い、個々の思いや希望を把握し、実現できない場合は代替え案を提示しています。個別面談の機会もあり、職員の意見や思いが反映できる職場作りをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いや現状を管理者が代表で報告、伝達し、現状を把握して助言や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常時代表者は事業所内に居ないので、管理者が主任が職員面談を行っている。個々の職員を把握しスキルアップの為の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の場を持ち情報交換や勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の個々の話を傾聴することで安心して過ごしていただけるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、不安なことを傾聴し信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用していたが、現状での課題点が多く在宅介護に限界があり個別ケアが必要と思われる入居者が多い		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係を築き、個々の職員によって利用者との関係があり利用者が時には母の役割を担ったり、仕事をしていた頃の過去の能力を引き出せるケアを実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたり、外出外食をされる際には気持ちよく送り出し、迎え入れをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来訪して頂ける配慮や手紙のやりとり、電話対応など入居者同士の馴染みの関係作りを心がけている	併設のデイサービスに通われている友人に利用日に会いに行き話をしてもらっています。家族や友人が来訪の際にはゆっくりと過ごしてもらっています。家族と自宅へ戻ったり、馴染みの店へ行ったり、店の方の送迎で以前から通っている美容室へ行っている利用者もいます。手紙や年賀状、電話でのやり取りの支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの入居者同士楽しめる空間作りを心がけ、他者に対して手助けをされたりする関係を大切にして、見守ったり職員と一緒にいたりしている。		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約修了者は特別養護老人ホームに入所されているため関係は継続できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定できない利用者の場合は、表情を汲み判断している。意向は家族が多いが、入居者の様子や状況に応じて家人へ可能な限り本人本位な暮らしが実現できるようにしているが、実現が困難なことが多い。	入居時に家族に利用者の今までの暮らしぶりをアセスメント用紙へ記入してもらっています。利用者には日常の会話の中で、思いや希望等を聞いています。表現の困難な方には、24時間生活変化シートを用いて表情や行動を客観的に記入し、情報をまとめた上で会議等で話し合っ把握できるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の暮らしや自宅での生活リズムや習慣を家人や本人から聞き取りをしたり、日常の場面で利用者との会話の中からの情報を記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室での過ごし方や入居前の過ごし方を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の職員の気付きやアイデアを計画作成時に取り入れている。	担当者が主になって、利用者の意向や家族の希望を基に介護計画を立てています。3ヶ月に一度モニタリングを行い現状に即しているか評価し、見直しに繋がっています。状態の変化がある場合は随時見直しています。目標別に実施記録のシートも整備しており、介護計画の評価を行っています。必要時には医師の意見も反映しています。	現在のアセスメントは身体機能の評価が中心になっています。更に利用者個々の思いや希望を計画に反映できるように、アセスメント様式を工夫されてははいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人記録に記入はしているが、ケアの変更や変化、気づきなどを職員間で情報を共有把握に努めている。日々の記録を振り返り計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で生れるニーズについて職員間で検討をおこない支援している		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際の状況報告、医師に相談等必要に応じて行っている。服薬調整や管理を行っている	ホーム提携医に変更になった方もいますが、ほとんどの利用者は今までのかかりつけ医を継続しています。受診は家族が対応していますが、ホームでの状態を文書で伝え、診察結果の報告をもらっています。緊急時や必要時には職員が同行することもあります。また、必要に応じて歯科医の往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理に留意しているが受診の必要が認められたときには家族に受診を促している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は対象者がおられないが今後は受け入れできる体制づくりをしていく	契約時にホームの方針を説明しています。希望される利用者については、看取り支援を行いたいと考えています。ホームでは、慣れ親しんだ場所で最期までその人らしく過ごして欲しいと考えており、職員研修を行ったり、主治医との連携強化、家族との協力体制を整えた上で実施したいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。	年に2回自主訓練を行い、昼夜想定で避難誘導、通報訓練等を行っています。行政からのアドバイスがあり地域の消防団との連携を強化する為、運営推進会議の参加を依頼したり、協力の下で避難訓練を行いたいと考えています。災害時に慌てないようにホームに整備している発電機の使用方法も繰り返し練習しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際には必ず本人の了解を取っている	人生の先輩として丁寧な言葉遣いを基本としていますが、親しみやすさも大切にしています。訪室の際は必ずノックし、利用者の持ち物に触れる時に声かけをして了解をもらっています。不適切な場面があればその都度注意し合っています。入浴やトイレ介助は同性介助を行い、大勢の前では排泄等の声かけにも十分注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の中から希望を聞き取り実現している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節を感じれるような活動や機能低下予防の運動などの活動をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外食や外出時には身だしなみを整えたり化粧をしたりして出掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは入居者と共に行っている。入居者の希望を聞き取り好みの食事を一緒に作っている	昼と夜は併設のデイサービスの調理場で作った食事を提供していますが、写真を見ながら好きなメニューを聞いて、献立作りに反映しています。月に3回程度は献立から買い物、調理まで出来る利用者と一緒にしています。おやつは頻繁に手作りし、時には外食や喫茶店に出かけています。職員は毎食検食して、味や固さの要望を調理場に伝えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査の実施。食事形態は時々の本人の状態にあった食事形態の臨機応変な変更をしている。自発的に水分補給ができない方については、職員が時間毎の飲水を行っている。好みの飲み物を提供したり水分が適切に摂れるよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを実施している。必要があれば訪問歯科を受診している		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが無い場合でも定期的な誘導によりトイレでの排泄を心がけている	トイレでの排泄を基本としており、排泄パターンを把握して定期的に誘導したり声かけを行った結果、失敗の頻度が減ってきています。紙パンツで入居された方も布パンツとパッド対応に移行できています。会議等でも個々の排泄の状態を話し合っって少しでも向上出来るように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自発的に飲水できない方については排尿間隔や尿の状態の観察、水分補給を意識的にこなったり、寒天を使ったおやつなど繊維質を多く含む工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のペースで入浴している	浴槽には重度化にも対応できるように、リフト浴を整備しています。午前と午後に入浴の準備を行い、週に2~3回は希望の時間に入浴してもらっています。拒否のある方には時間を変えたり声かけを工夫し、気持ち良く入ってもらっています。夏場は毎日の入浴も可能です。リラックスできるように季節のゆず湯や入浴剤を取り入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムや当日の状態に応じて覚醒時間と休養時間を調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の情報や副作用など職員が把握し受診された際には主治医からの指示がないか家族からの申し送りを受けて適切に服薬できるように職員で管理をおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や習慣など家人から聞き取りを行い施設内でその能力を活かせるように支援している。生け花を習っておられた入居者に玄関の花を生けていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中から利用者の希望を聞きだし、実現できるようにしている。近隣はのどかな場所であり交通量も少ないので、外に出たい時は、本人の意向に沿って散歩したり、買い物したり外出している	毎日散歩や買い物で出かけたり、法人の広い敷地があり庭の草むしりや玄関先のベンチに座って日光浴する等、少しでも外気に触れる時間を作っています。希望を聞いて長岡天神等へ行ったり、個別での外出支援や季節の花見や車でドライブする等の遠出もしています。	

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の会話の中から利用者の希望を聞きだし、実現できるようにしている。近隣はのどかな場所であり交通量も少ないので、外に出たい時は、本人の意向に沿って散歩したり、買い物したり外出している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を書いて近所のポストと一緒に投函しに行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は、家をイメージした落ち着いた空間を作っている。広さは施設にしては狭い空間のようであるが、自宅に居るような雰囲気でも落ち着いた過ごせる空間となっている。空気清浄機、加湿器の使用により湿度調整をしている。	事業所は木造建築の日本家屋で、ホーム内も木材を使用し、昔懐かしい和風の設えです。毎日利用者と共に掃除を行い、玄関には生け花や利用者の手作り作品が飾られています。台所と談話室が分かれており、窓からは山並みが見渡せ四季折々の風景を楽しむことが出来、利用者は自然と談話室に集まってテレビを見たり話をしたりして過ごされています。また、定期的に換気を行い、温度や湿度にも気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室があるが居心地の良い空間となるにはまだ課題がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態に応じて一緒に居室の空間作りをしている	居室は和室と洋室があり、ベッドとクーラーを設置しています。テーブルや椅子、飾り棚等の家具や大切な仏壇やアルバム、家族の写真、趣味を楽しめるような様々な物品を持ち込まれています。身体機能の状態に応じて布団を敷いて休むことも出来ます。利用者は音楽を聴いたり、洗濯物たたみ等の家事をしながら居室で過ごす時間を持っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は自宅をイメージしたものとなり、自宅で過ごしている状況と動作が可能のため残存機能を活用できるようになっている。		